

報道機関各位

岩手県農業研究センター

## 世界初！ナス果実小陥没症の発生原因を解明

県南地域のナス産地では、原因不明の障害「ナス果実小陥没症」が生産上の問題となっています。現地では、この障害の発生により、収穫果実の約7割を廃棄した事例も確認されており、原因の解明が求められていました。

今回、農業研究センターでは、この障害がナスの葉に発生する褐色斑点病菌（カビの一種）の感染によって生じることを世界で初めて明らかにしました。あわせて、褐色斑点病および果実小陥没症に対する感受性の品種間差異（病気に対する抵抗性の強弱）を研究成果に取りまとめました。なお、薬剤散布によってこの障害の発生を抑制することもすでに明らかにしており、防除指導に活用されています。

本知見は、県南地域をはじめとするナス生産地域における防除対策に活かされ、生産者の所得向上に寄与するものです。8月以降の薬剤防除が重要な対策となりますので、取材のうえ広く周知していただきますようお願いいたします。

### 記

#### 1 成果の内容

- (1)ナス果実小陥没症は、褐色斑点病菌の胞子が感染して生じることを明らかにしました。
- (2)感受性の品種間差異は認められますが、品種の切り替えのみで被害を回避するのは困難です。そのため、8月以降、効果のある薬剤をローテーションで散布し、この障害の発生を抑制することが重要です。

#### 2 その他

- (1)褐色斑点病およびナス果実小陥没症に効果的な薬剤の検索を継続してきました。その結果、令和3年7月現在、8薬剤が本病に対する農薬登録を取得し、防除に活用されています。



写真1 褐色斑点病の病斑

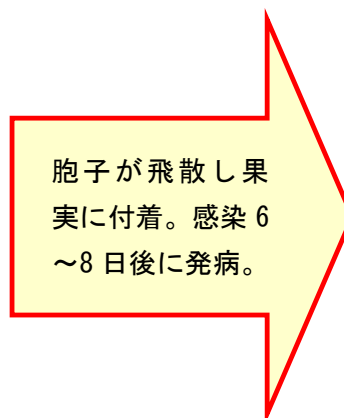


写真2 ナス果実小陥没症

研究担当：生産環境研究部病理昆虫研究室（藤沢） TEL：0197(68)4424 FAX：0197(71)1085

広報担当：企画管理部研究企画室（工藤） TEL：0197(68)4402 FAX：0197(68)2361